

2016年9月の台風16号被害からの復旧

2016年9月20日の未明、台風16号が鹿児島県南部を通過した。上陸時の勢力は、中心気圧が955hPa、最大瞬間風速が40mで、全盛時よりもやや勢力を落としていたが、演習林内の被害は林地、林道を含めて過去最大級のものとなった。(被害の状況は大学演習林年報第31号 演習林の最近の話題にて報告)

林道の災害復旧については文科省の災害復旧予算がつき、2017年度から林道(橋梁含む)の復旧工事が行われ、2018年度末にすべての復旧工事が完了した。復旧工事は、工期短縮のため2工区に分けられ、異なる業者により施工された。完全復旧までの間通れない区間が多数あり、生産・保育等の施業ができる範囲が限られ、実習や研究利用にも大きな制約が生じた。

また、斜面崩壊等による林地被害も甚大であったが、これについては被災後に航空ライダー測量を行い、航空写真とGISを用いて調査した。崩壊した林地は163箇所延べ面積は48.58haに及んだ。加えて、樹木の折損や倒伏などの著しい森林被害があるが、これについては定量的な調査は実施していない。

林道災害、斜面崩壊による林地被害により演習林の長期計画(第12次森林管理計画)や経営計画の遂行にも支障をきたすことになり、計画の変更を余儀なくされた。

また、演習林での自然体験実習や地域貢献活動の中で最も人気の高いプログラムである串良川源流の沢登りも、河川地形が大きく変わったり湧水が土砂に埋まるなどの影響で現在も休止を余儀なくされている。

このように、2016年9月の台風16号の爪痕は、演習林の教育研究活動および森林管理の面で将来にわたって大きな影響を与えることとなった。



長谷林道災害後



長谷林道復旧後



橋梁復旧状況



航空写真(110林班)林地崩壊 崩壊面積5.35ha